

研究成果報告会

－ふくしまの環境回復に係るこれまでの取組－

プログラム

11月9日(月)

◆ 開会挨拶 13:00～13:10

◆ 基調講演

13:10～ ふくしまの環境回復に向けた環境創造センターの活動計画

福島県・研究総括 **鈴木 克昌**

13:40～ 国立環境研究所が進める災害環境研究
－ふくしまの環境回復研究を中心として－

国立環境研究所・フェロー **大原 利真**

14:10～ 原子力機構におけるふくしま復興のための研究開発

原子力機構・福島環境安全センター長 **油井 三和**

◆ パネルディスカッション

15:30～ ふくしまの環境回復に関わる理解を進めるためには

モデレーター： 宮原要(原子力機構)

コメンテーター： 森口祐一(東京大学)

パネリスト： 佐藤弘美(福島県)、開沼博(社会学者)、齋藤聖子(大学評価・学位授与機構)、
林誠二(国立環境研究所)、齋藤公明(原子力機構)

11月10日(火)

9:00～ テーマ別発表

分野：環境モニタリング、線量評価技術、環境動態、除染・減容技術、情報発信とコミュニケーション

日時：平成27年11月 9日(月) 13:00～17:00

平成27年11月10日(火) 9:00～16:30

会場：ザ・セレクトン福島 3階 (福島県福島市太田町13-73) <入場無料>



問い合わせ先

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門 福島事業管理部

福島県福島市栄町6-6 ユニックスビル1階

TEL:024-524-1060

<http://fukushima.jaea.go.jp>



◎参加ご希望の方は、上記HPよりお申込みください。

ご挨拶

東京電力福島第一原子力発電所事故から4年半が経過し、現在もなお10万人を超える方々が避難しています。日本原子力研究開発機構（以下、原子力機構）は、我が国唯一の原子力に関する総合的な研究開発機関として、事故発生以来、環境回復のための取組みを進めてまいりました。

福島県内を中心とした環境放射線のモニタリングを行い、空間線量率や放射性セシウムの沈着量の状況を把握するとともに、得られたデータは整理してインターネットを通じて情報発信しております。また、将来の放射性物質の状況を予測するために環境中での放射性物質の移行等の調査を行い、得られたデータから予測モデルを開発している他、放射性セシウムの吸着機構解明に係る研究、除染除去物の減容化方策に関わる取組みについても着実に進めているところです。

今後、環境創造センターにおいて、福島県、国立環境研究所と連携して課題に取り組んで参る所存です。

本報告会では、これらの環境回復に向けて取り組んできた研究開発テーマの中から関係する研究機関等の協力も得て、代表的なテーマの状況や成果等を報告させていただきますとともに、研究成果の理解促進に向けたパネルディスカッションも実施します。環境回復の状況について一層のご理解をいただくとともに、環境回復に尽力されておられる皆さまにとりまして、今後の活動の一助となれば幸いです。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門 福島環境安全センター

センター長 油井 三和



テーマ別発表（10日開催）

（1テーマ・40分：発表30分、質疑10分）

開始時間	発表テーマ名等	発表者	分野
9:00	事務局連絡		
9:10	無人機を用いた放射線モニタリング技術の開発	眞田 幸尚	環境モニタリング
9:50	東京電力福島第一原子力発電所から放出された放射性核種の分析法の高度化	武石 稔	線量評価技術
10:30	福島県内における住民の被ばく線量評価手法の開発	宗像 雅広	線量評価技術
11:10	ポスターセッション		
11:30	昼食		
13:30	福島長期環境動態研究開発・放射性セシウム移動挙動の概観、長期線量率観測、地衣類調査	飯島 和毅	環境動態
14:10	原子力機構「除染推進専門家チーム」活動実績	浅妻 新一郎	除染・減容技術
14:50	休憩		
15:10	福島環境回復におけるコミュニケーション、人材育成活動について	時澤 孝之	情報発信とコミュニケーション
15:50	福島原子力事故関連情報アーカイブと今後の成果発信について	野澤 隆	情報発信とコミュニケーション